

◇令和3年／2021年5月号 第99号◇



フジサンケイグループ

全 産経国際書会 報

SANKEI INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION



てつぎゅう
「鐵牛」 揮毫＝風岡五城理事長

鐵で鑄た牛。昔、中国で黄河の水を防ぐため河中に沈めたという。
また、堅強で屈しない喩えにも用いられる。まさにコロナに負けるなである。



産経新聞社
代表取締役社長
飯塚 浩彦

令和3年度の初めにあたり

会員の皆さまにおかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。

約1年にわたる新型コロナウイルス感染の影響で、書道界においても対面で行う稽古や錬成会がなかなかできず、社中展も開催が難しくなるなどさまざまな影響を受けています。

産経国際書会では昨年、東京都美術館はじめ地方展も何とか開催することができました。ただ、贈賞式、祝賀会はできず、受賞者の皆さまには大変残念な思いを強いることとなりました。

今年は万全のコロナ対応を取ったうえで、展覧会、贈賞式を開催したいと考えております。

IT全盛の時代とはいえ、一般の方がペンや毛筆を使って自筆することへの興味はいささかも衰えていないと思います。最近ではリモートによる書の指導や、文字を美しく書く、いわゆる“美文字”も人気を呼んでいます。

改めて書道の意義を再認識し、2年後の書会40周年に向けて、書会の存在感を増すような企画を進めていきたいと思っています。

産経新聞社では、引き続き産経国際書会との連携を深めて参りますので、皆さま方のご支援をお願いいたします。



産経国際書会
理事長
風岡 五城

コロナ禍でもやるべきことはやる

3月の総括会議で総会は昨年同様、書面にて行うことが決まりました。新型コロナウイルス感染拡大が今なお一向に収まる気配が見えない状況を踏まえての処置ですが、会員の皆様とお顔を合わせることがこの一年間ほとんどなく実に残念な思いでいます。

今年度の産経の諸事業は、コロナ禍においてもやるべきことは感染対策を取りながら粛々と進めて行くのが基本的な方針です。本展の審査会は東京都立産業貿易センター浜松町館へ移して、空間的に余裕を持たせて行います。本展並びに地方展の贈賞式・祝賀会についてはその時の状況にもよりますが、せめて贈賞式だけは行えるようにしたいと考えています。また昨年できなかった研修会も、今年も行えるよう前向きに準備を進めています。

しかし、これまでやってきたことをただ繰り返すだけでは時代の変化についていけなくなるでしょう。働き方や学び方など既にいろいろな面で変わってきています。書会においてもこの一年の会員の減少は深刻な問題です。それに関連して作品の規格(小作品部門)についての検討を始めました。2年後に迫る40周年記念事業をどうするかも大きな課題です。会員の皆様のご理解ご支援を切にお願い申し上げます。

令和 3 年 産経国際書会総会

新型コロナウイルス感染がおさまることを期待して、今年度総会(第36期)を4月15日、東京千代田区の大手町サンケイプラザで行う予定にしておりました。しかしながら、1月に2度目の緊急事態宣言が出され、3月にはいったんは宣言解除されたものの、一向に収まる気配を見せませんでした。残念ではありますが、今年も皆で集まっての総会を開催することを断念し、書面による決議とさせていただきます。会員1,528人中、その3分の1を超える818人から回答書をご郵送いただきました。集計の結果、各議題とも賛成多数となり「全議題承認」ととなりました。また、皆様からは予算、人件費、会費、退会者、人事など様々な面でご意見を頂戴いたしました。今後、執行部を中心に検討して参ります。

昨年は、毎日展、読売展など大型公募展、多くの社中展が中止に追い込まれる中、産経国際書展、ジュニア書道コンクール、新春展と会の根幹をなす3つの展覧会は新型コロナウイルス感染症への対策を十分にとりながら、なんとか実施をいたしました。

今年は4月25日から東京、大阪、京都、兵庫に再度、緊急事態宣言が発出されました。まだまだ、コロナとの戦いは続きますが、会員の皆様、ご関係の皆様のお力をお借りしてこの難局を乗り越え、書展、書会の事業を継続していきたいと思っております。ぜひ、皆様方のご支援、ご協力をあらためてお願い申し上げます。

また、来年、令和4年度からは本展とジュニア展の会期が変更になります。8月14日から21日の8日間で、本展はロビー階、1階、2階第1・2室の計10室、ジュニア展は2階第3・4室の計2室で実施、全館を産経国際書会で使用することとなりました。そのため、本展での前期・後期の展示替えはなく、全ての作品を通期展示とすることが可能となりました。

なお、4、5pに総会資料をまとめたものを掲出いたします。

「産経国際書展」 今年の題字が決まりました

今年の産経国際書展(第38回)の題字を1月20日から2月28日まで募集しました。会友以上の会員なら誰でも応募可とし、無料、点数制限なしとしました。そうしたところ、26人から106点の応募がありました。デザイナー、事務局、関係者などで審査の結果、理事の沈彊さん(東西書芸会)の作品を採用させていただきました。

1年間、「産経国際書展」の題字として様々な媒体に使用して参ります。(事務局)

第38回
産経国際書展

2021
7.27(金) - 8.3(火)

◎会期中無休
午前9時半～午後5時半(最終日は午後2時半まで)
入場は開場30分前まで
※7月30日(金)は展示替えのため一部閉場

会場 東京都美術館
(ロビー階及び1階第1・2・3・4展示室)

入場料 一般500円
(障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方2名、65歳以上、大学生以下は無料)

東京都台東区上野公園8-36 TEL.03(3823)6921
(JR有楽町線・日比谷線「上野駅」京成電鉄「京成上野駅」下車徒歩約10分)
※場により中止、開場時間等の変更になる場合がございます。
※事前に各館館の上でご乗降下さいませようお願いします。

【主催】
産経国際書会 産経新聞社

【後援】
外務省 文化庁 中国大使館文化部
駐日韓国大使館 韓国文化院 東京都 愛知県
アジアレビジョン ニッポン放送 サンケイスポーツ
タリッジ 扶桑社

〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2 産経新聞社事業本部内
TEL.03(3275)8962
FAX.03(3275)8963
E-MAIL www.sankei-shokai.jp

第36期 事業報告

◆令和2年度総会

令和2年4月16日(木)、大手町サンケイプラザで予定していた総会は新型コロナウイルス感染拡大のため中止とした。出席者45人、委任状提出者1,101人、あわせて1,146人にて実施する予定だったため、全会員(1630人)の3分の1以上で議案が成立するとの会則に従い、総会資料を全会員に郵送の上、第35期の決算、事業報告の了承と第36期の予算、事業計画、人事などを承認とした。

◆第37回産経国際書展

審査日 令和2年6月29日(月)～6月30日(火)

会場 大手町サンケイプラザ4階ホール(東京・大手町)

会期 7月27日(月)～8月2日(日)

会場 東京都美術館

ロビー階及び1階第1、2、3、4展示室

作品数 5,119点 入場者2,062人

贈賞式 7月29日(水)大手町サンケイプラザで開催予定であったが中止とした。

【イベント】 テープカット、揮毫会、ギャラリートーク、ワークショップなど予定していた全てのイベントを中止した。

【特別展】 ①特別色紙展＝御題は「躍」と「慶」、応募は55(昨年77)点。
②「書」でつなぐ世界と日本は「平和」と「希望」を揮毫＝5か国6点(昨年12か国14点)。アルメニア、タンザニア、ブルキナファソ、ラトビア、ルーマニア
③特別展示＝芸能人、文化人の書 4人
中山秀征、松村雄基、藤田三保子、岡部まり

◆2020産経ジュニア書道コンクール

会期 令和2年7月27日(月)～8月2日(日)

会場 東京都美術館 2階第4展示室

作品数 5,571点 入場者1,106人

贈賞式 7月31日(金)東京都美術館講堂で開催予定であったが中止とした。

*席書会、ワークショップも中止とした。

◆2020産経国際書会 夏期研修会

令和2年8月15日(土)、16日(日)、大手町サンケイプラザ4階ホールで実施予定だったが新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

◆第37回産経国際書展 東北展

会期 令和2年9月11日(金)～9月16日(水)

会場 仙台市・せんだいメディアテークギャラリー 6階

作品数 195点 入場者938人

贈賞式 中止。但し伊達政宗賞の渡辺龍泉評議員にはホテルにて関係者が見守る中、第18代伊達家当主伊達泰宗様より賞状が手渡された。

◆第37回産経国際書展 瀬戸内展

会期 令和2年9月29日(火)～10月4日(日)

会場 広島市・広島県立美術館

作品数 290点 入場者667人

贈賞式 中止

◆第37回産経国際書展 中部展

会期 令和2年11月3日(火)～11月8日(日)

会場 愛知県美術館ギャラリー

作品数 364点 入場者580人

贈賞式 中止。但し、受賞希望者には会場で賞状などを授与した。

◆第37回産経国際書展 関西展

会期 令和2年11月25日(水)～11月29日(日)

会場 大阪市立美術館

作品数 385点 入場者725人

贈賞式 中止。但し、受賞希望者には会場で賞状などを授与した。

◆令和2年度理事会

令和2年12月1日(火)、大手町サンケイプラザで予定していた令和2年度理事会は新型コロナウイルス拡大(第3波)のため中止とし、書面にての審議とした。理事会資料を186人の対象の先生に送り、全体の3分の1以上である153人から回答書が返送され、全ての議案について了承を得た。

◆第37回産経国際書展 新春展

大下見検討会 令和2年9月17日(木)

国立新美術館 地下1階審査室

Ⅱ(公募)審査 令和2年12月4日(金)

国立新美術館 地下1階審査室

会期 令和3年1月20日(水)～2月1日(月)

会場 国立新美術館

作品数 817点 入場者1,362人

大作品者 生田佳葉専管理事、武翠泉専管理事、谷蒼涯理事、晴山竹芳(審査会員)さんの4人

贈賞式・祝賀会 1月28日(木)午後2時～2時40分

国立新美術館講堂

※初日のテープカット、ギャラリートークは中止した。

第37期 事業計画

◆第38回産経国際書展 審査会

会 期 令和3年5月25日(火)～5月27日(木)
会 場 東京都立産業貿易センター浜松町館4階
展示室
※5月24日(月)は作品搬入、懇親会はなし

◆2021産経ジュニア書道コンクール 審査会

会 期 令和3年6月16日(水)※17日(木)に作品整理
会 場 東京都美術館 地下3階第4作業室B、審査
室A・B

◆第38回産経国際書展

会 期 令和3年7月27日(火)～8月3日(火)
※展示替えは30日(金)
会 場 東京都美術館 ロビー階、1階第1室～第4
室(計8室)
贈賞式 7月29日(木)大手町サンケイプラザ
4階ホール 午後1時～

◆2021産経ジュニア書道コンクール

会 期 令和3年7月27日(火)～8月3日(火)
※展示替えは30日(金)
会 場 東京都美術館 2階第4室
贈賞式 7月31日(土)東京都美術館講堂 午前11時～

◆2021産経国際書会 夏期研修会

会 期 令和3年8月14日(土)、15日(日)
会 場 大手町サンケイプラザ
内 容 臨書を学ぶ

◆第38回産経国際書展 東北展

会 期 令和3年9月17日(金)～9月22日(水)
会 場 せんだいメディアテーク
贈賞式 9月19日(日)ホテルメトロポリタン仙台
午後3時～

◆第38回産経国際書展 瀬戸内展

会 期 令和3年9月28日(火)～10月3日(日)
会 場 広島県立美術館
贈賞式 10月2日(土)広島ガーデンパレス
午後2時～

◆第38回産経国際書展 中部展

会 期 令和3年11月2日(火)～11月7日(日)
会 場 愛知県美術館ギャラリー
贈賞式 11月7日(日)ホテル名古屋ガーデンパレス
午後12時～

◆第38回産経国際書展 関西展

会 期 令和3年11月23日(火・祝)～11月28日(日)
会 場 大阪市立美術館
贈賞式 11月28日(日)都シティ大阪天王寺
午後12時30分～

◆令和3年度理事会

会 期 令和3年11月30日(火) 午後2時～
会 場 大手町サンケイプラザ311・312号室

◆第38回産経国際書展 新春展

会 期 令和4年1月26日(水)～2月7日(月)
会 場 国立新美術館
贈賞式 1月27日(木)国立新美術館 午後2時～
(予定)

第36期 決算と第37期 予算

税別

区分	第36期		第37期
収入	予算	実績	予算
	会費収入等	88,500,000	85,129,210
支出	事業費	17,000,000	13,479,830
	国際書展出品料	32,181,818	27,594,545
	その他運営費等	39,318,182	30,318,386
			37,500,000

会費収入

(単位:円)税別

区分	第36期決算	第37期予算
審査会員	48,635,038	48,960,000
無鑑査会員	23,363,637	22,320,000
会友	13,109,546	13,720,000
計	85,108,221	85,000,000

出品料

(単位:円)税別

区分	第36期決算	第37期予算
審査会員(3万円)	15,409,091	17,181,818
無鑑査会員(2万円)	8,072,727	9,090,909
会友(1.3万円)	4,112,727	4,727,273
計	27,594,545	31,000,000

第36期 産経国際書会役員

2021. 4 ~ ○=新任(敬称略 50音順)

【会 長】	飯塚 浩彦						
【最高顧問】	齋藤 香坡	田中 鳳柳	村越 龍川				
【会長代行】	伊藤 富博						
【名誉顧問】	生田 博子	石川 天瓦	竹澤 玉鈴	手島 泰六	平方 峰壽		
	本多 道子	山下 海堂					
【常任顧問】	今口 鷺外	岩下 鳳堂	岩田 正直	上野 鶴陽	佐藤 志雲		
	青陽 如雲	田村 政晴	原田 圭泉	宮崎 春華			
【顧 問】	五十嵐光子	小名 雪王	加藤 深流	白崎 菖汀	三上 錦水		
	望月 曉云						
【客員顧問】	齊藤 華秀	晋 鷗	高畑 常信	武田 厚	竹中 幸生		
	趙 白鶴	平方 研水	劉 洪友				
【参 与】	岡 美知子	木村 春峰	久保 翠雪	須藤 松閑	夏堀 竹翠		
【理 事 長】	風岡 五城						
【理事長代行】	坂本 香心	渡邊 麗					
【副理事長】	今田 篤洞	岩浅 写心	勝田 晃拓	金丸 鬼山	高木 撫松		
	高頭 子翠	高橋 照弘	武富 明子	正川 子葉	松井 玲月		
	松崎 龍翠	村田 白葉					
【専務理事兼事務局長】		糸 雅人					
【事務局次長】	山口 邦泰						
【常務理事】	青木 錦舟	赤堀 翠柳	浅香 秀子	泉 芳秋	磯邊 哲舟		
	伊藤 春魁	伊東 玲翠	今井 翠泉	岩田 蕙雨	岩村 恵雲		
	上村 陽香	江戸 秀虹	遠藤 乾翠	大庭 清峰	大橋 玉樹		
	岡本 杏華	小川 艸岑	小名 雪揺	小野 亭良	鎌田悠紀子		
	黒田 浩芳	小杉 修史	後藤 教子	斎藤 秀翠	五月女紫映		
	眞田 朱燕	鈴木 青苑	鈴木 祐洞	世木田江山	多田 游硯		
	建部 恭子	戸叶 幽翠	長尾 佳風	永田 龍石	中野 和博		
	中村 雪鷺	西尾 秀誠	西川 万里	野崎 俊江	人見 恵風		
	堀江 宣久	町山 一祥	山本 晴城	吉野 富龍	渡邊 祥華		
	渡部美恵子						
【専管理事】	青柳 光草	安蒜 欣青	生田 佳葉	石井 理春	遠藤 香葉		
	老川 揺舟	奥村 桃曄	小野澤美香	加藤 香誓	菊山 武士		
	木住野 栄	北野 香春	木村 大澤	小泉 玲洸	小林 紫雲		
	近藤 豊泉	佐藤 志陽	篠原 秀朋	莊司 欣水	菅原 有恒		
	杉原 静花	鈴木 愚山	鈴木 博子	鈴木 蓉春	○諏訪 春蘭		
	武 翠泉	竹内 美翠	田島 青谷	橘 圭子	鶴田 秀紅		
	富田 静流	中野 桂月	西尾 蘭畦	芳賀 祥緑	羽根田和香		
	林 龍成	久田 方瑋	菱沼 東坡	眞々田壽扇	三橋 和泉		
○本橋 春景		諸留 大穹					

【理事】	石井 思水	伊藤 牙城	今井 軒石	岩田 和道	上田 智子
	梅内 春藍	及川 扇翠	大川 詢子	大澤 芳洲	大田 桂水
	大段 栄泉	大場 映翠	○大久 恵華	大八木雅山	岡野 蒼生
	岡村 公裕	刑部 翠風	小名 玉花	小野 左鷺	恩田 瑞貞
	影山 瑤琴	梶谷 綾泉	加柴 律子	加藤 竹藜	加藤 芳珠
	川井 恵風	久米 麗鳳	小杉 秀花	小林 千津	小宮 求茜
	斎藤 修竹	酒井 竹風	佐武 照聲	鐘 旭孫	沈 彊
	鈴木 暁昇	鈴木 蒼	鈴木 葉光	関根 史山	関根 春峰
	瀬戸 桂舟	高野 彩雲	高橋 峰月	高橋 峰雪	田中 龍渕
	谷 蒼涯	玉木 白雲	玉田 子翠	田村 恵子	辻 和雲
	長瀬 沙焱	中塚 龍華	中平 博子	長谷川明扇	○早坂 喜伊
	平岡 雄峰	平本 一恵	古谷 華楓	前田 聖峰	松岡 篁月
	松岡 舟波	宮川 彪子	三宅 秀紅	宮平 翠玲	村越 弘鷹
	村瀬 敢山	室伏 雅箏	○盛田 理泉	○柳 鵬翔	山下 翠風
	山田 華萌	山田 秀園	横溝 景陽	吉本 麗竹	ラモス逸子
	和田 玲砂	○渡辺 龍泉			
		林 清方			
【監事】	岩間 桃香	有友 啓扇	飯田恵美子	井形 大正	石井 政子
		石川 溪舟	石川 秀苑	石川 由美	石黒 鴻羽
【評議員】	阿久津由美	植田 泰之	○圓田 翠泉	黄木 孝一	大木 翠晃
	石川 杏華	○大竹 翠葉	大谷 芳雨	岡崎 洋翠	小笠原素心
	○伊藤 秀泉	小谷 翠谷	梶井 香龍	加藤 桂谷	加藤 松亭
	大田 美州	加藤 遊墨	カレン紅鸞	河口 美櫻	河原畑静揚
	岡林 御舟	○木村 翠川	熊切 溪石	倉賀野静子	小久保里子
	加藤 石泉	小関 麗翠	五戸 光岳	今野 美晁	齋藤 欣江
	木谷 峰水	定野 桂雪	里 芳倫	佐藤マス子	澤村 春泉
	小嶋カズ子	柴山 枝峯	清水 小舟	菅井 裳雲	鈴木 邦仙
	齊藤 春欣	橘 黄華	田端 香峰	塚原 桃虹	津久井桂葉
	篠原 寒鵬	銅山 桂銅	永田 昌子	中西 美蕙	中村 蘭香
	高橋 翠石	波多野久美	羽根田菖風	林 弘子	原田 統玄
	土田 芳水	藤井 峯子	藤村 満恵	布施 夏翠	降幡 加津
	野尻 春華	○星野 秀水	堀川 梨華	町田 昌畦	町田 武山
	平野 恵亮	松戸 清玲	松永 光鳳	水原 白姚	三谷 旭心
	古谷 紫水	○三宅 華子	宮崎 礼子	森田 香深	○八木 一華
	松岡 静仙	山口 了世	山崎 玉松	山田 娃泉	山本てるみ
	蓑口 草川	米山 石峯	渡辺 敦子	渡邊 正峰	渡邊麻衣子
	矢崎 藤香				
	横田 玉華				

第 38 回 産経国際書展 実行委員長からひとこと



われら書人

実行委員長 副理事長 岩浅写心

初春を飾った新春展も無事12日間の展示を終えた。コロナ禍のなか、頑張った関係者の皆様に心から御礼申し上げる。時節がら観客は少なかったようだが、嬉しかったのは出品数が37点増加とのことだ。38回展もかくありたいと願うのは誰しも同じと思う。

緊急事態宣言解除のとたん、第4波の到来の様相であるが同展は徹底した予防策で各行事を行う予定である。東京2020オリンピック・パラリンピックも外国人客は来日できないとなつて、企画部が検討した諸々も事務局と相談しながら臨機応変に対応したい。

コロナ禍中でも健康な人は外出自粛で以前より書に勤しむ時間が増したのではないかと作品は創ったら他の人に見て欲しいものである。練習量が増し、また、発想も豊富になり磨きのかかった作品をたくさん発表して欲しい。

新型コロナには負けないぞ！の意気を示そうではないか。われら書人だから。

第 38 回 産経国際書展 審査員

●特別選考委員

石川天瓦、岡部昌幸、風岡五城、齋藤香坡、酒井孝太郎、晋嶋、竹澤玉鈴、田中鳳柳、手島泰六、富田淳、原田圭泉、平方峰壽、村越龍川、山下海堂、吉野毅

●漢 字

愛澤奏剣、泉芳秋、大庭清峰、勝田晃拓、金丸鬼山、坂井光泉、坂本香心、鈴木暁昇、高木撫松、長尾佳風、永田龍石、平岡雄峰、前田聖峰、三宅秀紅、山本晴城

●か な

伊藤春魁、今口鷺外、加藤芳珠、武富明子

●現代書

生田佳葉、遠藤香葉、加柴律子、河口美櫻、小嶋カズ子、諏訪春蘭、高野彩雲、高橋照弘、高橋雄喜、山田秀園、渡邊麻衣子

●篆刻・刻字

岩浅写心、風岡五城、五月女紫映

●臨 書

今田篤洞、中村雪鷺、松井玲月、松崎龍翠、望月暁云

●U23

岩下鳳堂、大谷煌水、鎌田悠紀子、高頭子翠、渡邊麗

第 38 回 産経国際書展実行委員会

【実行委員長】		岩浅写心
【審査部】	本部長	村田白葉
	漢字部 部長	吉野富龍
	委員	副部長 本橋春景 石川晴空、菅井裳雲、武翠泉
かな、篆刻・刻字、臨書部		
現代書部	委員	阿久津由美、土田芳水
	部長	西川万里
	委員	進藤栄峰、十亀紫風、早坂喜伊
【搬出入部】	部長	磯邊哲舟
	委員	副部長 伊東玲翠 梶谷綾泉、神谷映水、小杉秀花、塚原桃虹
【陳列部】	顧問	勝田晃拓
	部長	山本晴城
	委員	副部長 渡邊祥華 阿久津由美、安蒜欣青、泉芳秋、伊藤春魁、老川揺舟、大場映翠、岡村公裕、 加藤松亭、五戸光岳、鈴木蓉春、関根史山、中野和博
【図録部】	部長	今田篤洞
	委員	副部長 岩村恵雲、青木錦舟 大久恵華、久米麗鳳、近藤豊泉、諏訪春蘭、高橋峰月、武翠泉、中村蘭香、 村山螢泉
【東京部会】	部長	武富明子
	委員	副部長 黒田浩芳 岩間桃香、久米麗鳳、近藤豊泉、平本一恵、山下翠風
【東北展】	顧問	本多道子、田村政晴
	実行委員長	松崎龍翠
	事務局長	建部恭子
	実行委員	大橋玉樹、小嶋カズ子、五戸光岳、田村恵子、芳賀祥緑、宮崎礼子、 渡部美恵子、渡辺龍泉
【瀬戸内展】	顧問	宮崎春華、世木田江山
	実行委員長	大庭清峰
	副実行委員長	上村陽香
	実行委員	大田桂水、吉本麗竹、石井思水、平岡雄峰、大段栄泉、松岡舟波、三宅秀紅、 鈴木蒼、圓田翠泉、田中春畝、曾根小徑、田中呉峰、美之口琴晴
【中部展】	顧問	村越龍川、風岡五城
	実行委員長	村田白葉
	副実行委員長	勝田晃拓、山本晴城、渡邊祥華
	実行委員	赤堀翠柳、磯邊哲舟、伊藤春魁、老川揺舟、大場映翠、岡本杏華、刑部翠風、 菊山武士、木村大澤、小泉玲洸、佐武照聲、田中龍渕、松岡輝峰、村越弘鷹、 村瀬敢山、和田玲砂
【関西展】	顧問	平方峰壽、今口鷺外
	実行委員長	松井玲月
	副実行委員長	正川子葉
	実行委員	小野亭良、長尾佳風、中村雪鷺、久田方琥、西尾蘭畦、篠原秀朋、生田佳葉、 竹内美翠、上田智子、加藤竹藜、山田秀園、山口了世、山田娃泉

第 37 期 産経国際書会運営委員

【総務部】	担当 理事長代行 部長 委員	坂本香心 浅香秀子 戸叶幽翠、人見恵風、鈴木博子
【会報・広報部】	担当 副理事長 部長 委員	高頭子翠 小川艸岑 影山瑤琴、早坂喜伊、渡邊麻衣子
【企画部】	担当 副理事長 部長 委員	金丸鬼山 岩村恵雲 恩田瑞貞、北野香春、大久恵華
【研修部】	担当 副理事長 部長 委員	勝田晃拓 五月女紫映 永田龍石、木住野栄、松岡篁月
【教育部】(ジュニア育成)	担当 副理事長 部長 委員	高橋照弘 眞田朱燕 生田佳葉、高野彩雲、宮平翠玲、小池雅游、星野葉柳、前田恵泉
【渉外部】	担当 副理事長 部長 部員	高木撫松 鎌田悠紀子 人見恵風、遠藤香葉、早坂喜伊
【会員増加企画(東京)】	担当 副理事長代行	坂本香心、渡邊麗
【会員増加企画(大阪)】	担当 副理事長	正川子葉、松井玲月
【東京】	部長 副部長	武富明子 黒田浩芳
【東北】	部長 副部長	松崎龍翠 建部恭子
【中部】	部長 副部長	山本晴城 伊藤春魁
【関西】	部長 副部長	松井玲月 正川子葉
【瀬戸内】	部長 副部長	大庭清峰 上村陽香

新しく審査会員になられた方

新井瑞鳳	植田清峰	江原梢風	大橋栄美	岡田崇花	岡田真由子	小倉一鳩	小野秀美	小野寺聖乗
加藤翠苑	金木杏花	桑 大樹	郷司翠楓	坂井曉麗	佐々木翠萌	佐野清風	東海林白扇	清田千桂
殿村蒼園	中村三寶	秦 祐子	三浦希韶	宮崎彩風	虫明智恵子	宗像翠龍	渡邊洋子	

新しく無鑑査会員になられた方

芦澤紫峰	生原凜々子	石川光苑	石川水碧	磯田竹山	一条侑琴	一柳庭華	伊藤雅洋	岩井玲翠
岩倉瑞季	岩崎 等	植田 拳	内村遊水	大河原紫舟	岡田佳代子	片山寿美子	加藤鈴氈	角江政則
鐘築重治	亀村曜子	川渕曉華	木村幸韻	木村桃里	小堀曉聲	佐藤早苗	佐藤龍玉	佐俣祥苑
塩澤鈴華	志水香華	城前玉香	白板玉彩	鈴木 陽	鈴木知夏	鈴木 瑞	須永清蘭	棚橋藍水
津川えりか	筒井保子	当間旺風	中島彩紅	西本竹風	羽根田皋菖	半谷松華	福田示陽	藤島果那
都沢美雪	村井麻子	森井爽生	山崎深翠	山中典子	連由貴子			

新しく会友になられた方

足立道代	天本京子	石井草心	市川柳香	伊藤青良	伊藤峰子	宇津木青嵐	大谷由起子	大塚桐月
大野彰洞	岡田蕙風	尾川滉晨	押田松鶴	勝又瑤仙	我那覇喜琉	梶島昌子	梶島康夫	川口久美子
川名秀太	河村雪華	國吉龍華	熊谷洋子	合屋恭子	腰原佳恵	後藤仙龍	小松恵仙	酒井雅代
榊田育代	白鷺富州	須崎恵石	鈴木紫苑	鈴木進一郎	鈴木雪華	鈴木莊子	鈴木隆志	芹澤利風
竹田倫吏	武野溪園	田中玉鈴	田中志水	田辺豊和	千葉和子	常松真紀	豊田游仙	新谷翠泉
西本満子	橋本多美子	畑迫秀岳	兵頭恒星	弘重輝扇	廣瀬天翔	藤井美鳳	古澤利枝	前川みさ
松尾健太	松下かおる	三木育苑	村瀬証駿	望月慶雲	本山鈴翠	森川泰泉	安田琳華	柳沢千佳
柳寺美鳳	山口鳳洲	山崎恵萌	山内玉泉	山本鳳泉	柚木笙遥	吉岡松龍	吉田早織	吉田 悟

第 37 回 産経国際書展 新春展

コロナ禍の新春展

会報・広報部長 常務理事 小川艸岑

昨年新春展を思い起こしてみますと、華々しく開会のテープカットが行われ、会場は大勢の来場者で賑わっておりました。しかし、閉会後まもなく新型コロナウイルスが発生する事態となり、一年後までもこのように様変わりすることなど想像もつかないことでした。

皆様とお会いできる日を心待ちにしていた新春展ですが、やはり遠方の方々には困難であったりと残念なことでしたが、今回は会場風景が動画配信されるなど工夫がこらされました。また落ち着いた会場では、ひとつひとつの作品と作者を思い浮かべながらゆっくり鑑賞することが出来ました。新春展Ⅱも出品点数が増えて嬉しいことです。これも出品しやすい魅力が備わっているからでしょう。

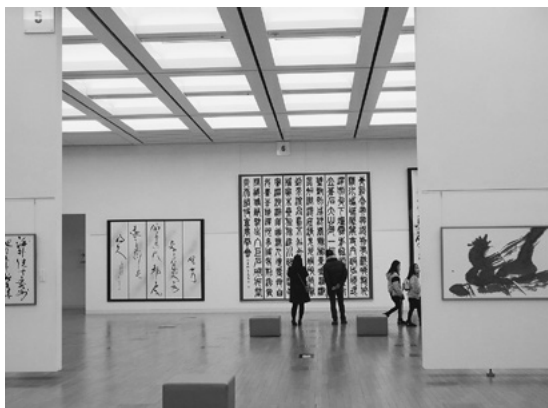
そしてコロナ禍に負けず万全を期して産経展、新春展と開催することが出来ましたことは、皆様のご理解とご協力の下にありましたことに感謝申し上げる次第です。



ウィズ・コロナの受付



代表展会場



大作を臨む



新春展Ⅰの作品展示

コロナ禍が収まらず、第2回目の緊急事態宣言が首都圏に出る中、「第37回産経国際書展新春展」は予定通り1月20日から2月1日までの12日間、東京・六本木の国立新美術館で開催され、入場者は昨年の約4分の1となる1,362人でした。

35回目となる「代表展」は190点を展示、審査会員・無鑑査会員が出品する新春展Ⅰは、185点が出品されました。会友と一般を対象とした公募部門である新春展Ⅱには442点の力作が寄せられ、会友奨励賞6点、産経新聞社賞5点、奨励賞31点が受賞の栄誉に輝きました。出品数は昨年に比べて約10%、42点多くなりました。大作は生田佳葉専管理事のかな、武翠泉専管理事の漢字、谷蒼涯理事のかな、晴山竹芳審査会員の現代書の4点を展示。

28日(木)は、美術館の講堂で午後2時から新春展Ⅱの贈賞式を行い、出席した20人に賞状とトロフィーを手渡しました。また、新年の会員同志の交歓の意味を持つ祝賀会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としました。早く皆で楽しく杯を自由に掲げる日が来ることを期待します。

そして、今年は新たな試みとして、会場内の展示作品を動画で撮影し、展示会場を見て回るような雰囲気を感じてもらおうと動画配信を行いました。贈賞式も同様に動画で見ることができるようネット上にアップしました。こちらの試みは、皆様の意見をお聞きしながら、改良を重ね、引き続き動画配信を試みていく予定です。(事務局)



新春展Ⅱ部門



産経新聞社賞の皆さん



会友奨励賞のお二人



奨励賞受賞者の皆さん



奨励賞受賞者の皆さん

おもいで

回想 (圭泉のつれづれ)

常任顧問 原田 圭泉

お隣の蓮華寺の桜に見とれて、未曾有のコロナ禍など嘘のように思えました。自然の力は素晴らしいです。

母、佐々木月花は第1回高円宮賞を受賞しました。父、泰南没後、25年ー我が母ながら立派に臨泉会を牽引してきた、そのご褒美でしょうか。但し、その時は四女、加藤石泉の夫、加藤正夫(日本棋院理事長)が突然逝去、その悲しみで、祝賀会は行いませんでした。

顧みますと、還暦・古稀・・・と年を重ねてきて、自分のこととなると無精な私は区切りの書展を開くこともなく、ただ通過点と見送り、会の事、書会の事などで忙しくあつという間に過ぎてしまいました。母の後、私は十四光りで内閣総理大臣賞を頂戴しましたが、ありがたいことでした。祝賀会は開かずに、それを機に今までをまとめた作品集を作成いたしました。まとめながら色々思い返し楽しい作業でした。

若い頃は父の海外(主に欧米)行に母たちと随行して模範席書等をいたしました。父の「古典的な書を消化した日本人的な書があるはずだ」という考え、その精神に影響を受けていたのかも知れません。今、書の海外展などは盛んになりましたが、昭和50年代はまだまだ未知数でした。それでも国際的に日本の書芸術が発展してゆく可能性を感じておりました。

私は古典が好きで臨書の勉強は続けてきましたが、作品は現代書の少字数が多いです。白と黒のコントラスト、青墨のニジミの中に絵画的な感覚を取り入れ、いろいろな分野を見聞きしてイメージを膨らませたりして制作してきました。それは、戦後、東京・青山から父母の郷里・八戸に13年在住し、多感な青春時代にその風土、人に触れ、また音楽などから益を受けてきたのがベースになっていたと思います。その頃は本をたくさん読み、書より絵をよく描いておりました。身体を動かすことが好きで、陸上、ソフトボール等走り回っておりましたので、書は好きでしたが今のように深く携わってゆくなど考えもしませんでした。

海外に行った先々での感動などは、グランドキャニオンは朱色紋画仙に「懷素の草書千字

文」全臨(240×180cm)、ナイアガラは「爆聲」(300×180cm)と表現しました。最近思うことで、自分はなかなかできませんが、商業デザイン的感觉、現代の建物、生活にマッチしたものなど面白いですね。映画「私は貝になりたい」の題字を書かせてもらいましたが、私としては冒険でした。書いていて古典の時から脱却できない自分を感じました。林錦洞先生から「なかなか良かったよ」とお電話をいただき嬉しかったです。伊藤欣石先生からも「映画のポスターに目が行き題字：原田圭泉とあったよ」と言われ、目にとめて下さったかと安堵しました。

2016年9月11日、東北展贈賞式の時、「現代書ー圭泉のひとりごと」と題して講演させていただいたのも私には良い経験でした。また、父の話になりますが、それがなくては私の書を語ることができません。父は我々を余り束縛する事や自分の型にはめ込む事はありませんでした。ただ、何かあると母を通して伝えられる事が多かったです。また、お弟子さんにはお手本をたくさん書いてあげましたが、私達にはほとんど書いてくれませんでした。その代わり「お酒と音楽の中」で作品を書くときは、我々に言葉はなしで見習いをさせました。墨や制作のセッティング他、すべて傍らで世話している母が、一番色々吸収している事は間違いありません。

面白いことに私たちはそれぞれその性格により受け取り方は様々で、すぐ下の妹、松井玲月は男性的な力強い作風、末の妹、加藤石泉は父の優しい芸術性を感じられる筆使いの作品で、三人三様でした。引っ込み思案だった私はとにかく努力の人と自覚しております。子供のいない私たち夫婦は約40年間同居し、今日に至っております。家での書作品制作は、父は午後、私は夜中、母は早朝というローテーションでした。従って、私は宵っ張りになりました。

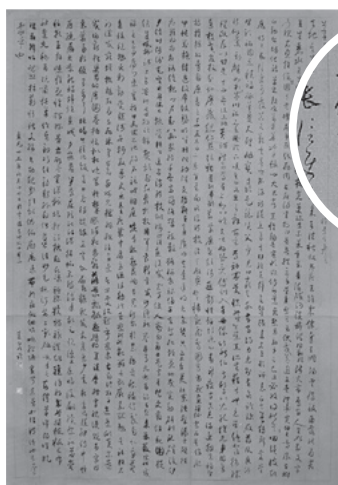
父はご存じの方もいらっしゃると思いますが、書壇酒豪番付で7年間、東の横綱でした。ただ強いのではなく淡々として崩れず、ゆったり膝をくずさず飲み続ける人でした。作家の火野葦平(私は色紙に似顔絵と「和ぎて佳し」と書いていただきました)や禅宗の小林全鼎先生

(厳しくてちょっと苦手でした)などがよく八戸の自宅に見えられましたが、我々は小さいころから「お客様にお茶を」と言われるとお酒をお持ちするのが当たり前でした。石川天瓦先生から聞いたのですが、小川瓦木先生が「佐々木先生にお冷を」と言われてお水を持って行ったら「違うよ」と言われたというエピソードがあったとか。書会の第80号会報の中で、母が「名誉も財産も残さず、淡々としてこの世を去りました」と書いてありますが、全くその通りの人でした。公募展に関してはあまり積極的ではありませんでしたが、お弟子さんには出品させておりました。我々には許してくれませんでした。後年やっと産経展に出品させてもらい、今に至って

おります。

そして101歳で昨年8月7日、母は父の世界に行ってしまいました。常に一緒に行動をとるにして寄りかかって当たり前と思いこんでいた私にとって、力が抜けたというよりいつも傍らにいたはずなのにと納得がゆかず、今の日常になかなかじめません。母は私にとって書家というよりはやはり母そのものでした。今は石泉一家や姪の紅鸞(玲月の長女)が近いのでよく訪ねてくれます。そして臨泉会の皆さんのおかげで、何とか体勢を整えております。

コロナや震災で世の中がすっかり変わってきてしまいました。気持ちも潤いがなく殺伐としてきたような気がします。そんな中、なんとか書に携わり夢中になって作品を制作したりできる私たちは幸せだと思います。書会の皆さんに早くお目にかかりたいです。



「懐素の草書千字文」
全臨 (240×180cm)



「爆聲」(300×180cm)



映画「私は貝になりたい」題字(左:チラシ 右:新聞)



2016年9月11日、東北展贈賞式での講演



母、佐々木月花先生を囲んで

「第38回産経国際書展」特別色紙展の募集

この特別色紙展は第21回産経国際書展からはじまり今回で13回目となります。
高円宮妃久子殿下から、いつまでも無理なく書に楽しく取り組んでいただけるようにという思いで、
毎回御題を下賜していただいております。

下記の要領にて実施いたしますので、資格のある先生方は奮ってご出品ください。

御 題 「命」あるいは「醫」 どちらかを選んでください。
展示場所 東京都美術館ロビー階(予定)
期 間 令和3年7月27日(火) ～ 8月3日(火)
作品体裁 色紙(273mm×243mm) ※数ミリの誤差はかまいません。
出 品 料 無料
出品資格 80才以上の会員。但し本展出品者に限ります。
※会友以上、昭和16年以前(16年生まれは含む)に生まれた先生
締 切 令和3年6月4日(金) 必着
応 募 作品に出品票を添えて、搬入先まで直接お申し込み下さい。
搬 入 先 藤和額装(株) 〒234-0054神奈川県横浜市港南区港南台7-51-12
TEL045(833)5273 FAX045(833)5275

◎応募いただいた作品は全て額装して東京本展に展示します(額装代は書会負担)。

◎各地方展へは当該地方在住者の作品を展示します。

◎作品は展覧会図録に掲載します。

◎作品は展覧会終了後、額装のままご返却いたします。

【問合せ】産経国際書会事務局 TEL03(3275)8902 FAX 03(3275)8974

夏 期 研 修 会

日時 8月14日(土)、15日(日)
場所 大手町サンケイプラザ4Fホール

今年の研修は「臨書」第2弾！ 8月14、15日に東京で

「王羲之書法日本古典法帖への展開」として、実技講習臨書を計画。昨年は新型コロナウイルス感染症拡大の為、止む無く中止いたしました。今年はマスク着用、手指消毒、三密を避けるなど感染症対策を徹底して行い実施する予定です。

臨書学習の要諦は系統だて順序だて進めることが最も肝要であり、書表現多様性を習得し、自作表現へ展開させる書人の主体的志向は分野を問わず伝統として普遍的に受容されているところです。ご自身の書法・技法の向上にお役立ていただきますようご案内いたします。

内容

	1日目 8月14日(土)	2日目 8月15日(日)
午前	伝統書法への回帰 草書 松翁 臨「邢子愿千字文」 高橋照弘 副理事長	日本的書道の萌芽 行書 空海「風信帖」 松崎龍翠 副理事長
午後	王羲之書法の摂取 楷書 光明皇后「楽毅論」 町山一祥 常務理事	天真流露の隸書の世界 隸書 「漢簡」 風岡五城 理事長

【会 場】大手町サンケイホール(東京都千代田区大手町1-7-2)

【日 時】8月14日(土)、15日(日)午前10時～午後4時10分

【受 講 料】全日(2日間)3,000円、但し1日のみ受講は2,000円

【締切・定員】100人先着で7月9日(金)申込み締切

【申し込み】申込書に必要事項(氏名、住所、連絡先、参加日)をご記入の上、産経国際書会事務局あてに郵送、FAX、またはemailでお申し込みください。事務局で確認次第、「受講票」と「郵便振替用紙」を郵送いたします。郵便局より受講料及びその他費用などを講習日までにお振り込み願います。※申込書は事務局にご請求ください。または書会HPよりダウンロード願います。

現在、新型コロナウイルス感染流行の影響で様々なイベントが中止となっています。本研修会につきましても、今後中止となることもありますので、ご了承の上お申し込みください。

書 展 ト ピ ッ ク ス

東天書道会創立60周年記念「未来の家寶展」

佐々木天道

●会期 11月28日(土)～29日(日) ●会場 常盤ふるさと資料館あすか(青森県藤崎町)

5年ごとに開催している「未来の家寶展」を11月に青森県藤崎町のイオン藤崎店とふるさと資料館あすかの2会場で開催しました。本展の目的は「会員の未来の家族のために、いま一生懸命に書を学んでいることを伝承する」ことです。今回は感染対策に注意、入場者にはマスク着用、検温と住所氏名の記載をお願いしました。開催初日には、埼玉からコロナ禍のなか、わざわざ桑原喬先生がお越しくださり感謝しています。

60周年は会にとりまして還暦であります。本年より新たな気持ちで書道の普及のため邁進したく思っております。今後もよろしくお願いいたします。



菅原有恒 百花選詩書展

●会期 12月20日(日)~23日(水)

●会場 東京交通会館地下1階エメラルドルーム

菅原有恒



暮れも押し迫り、新型コロナウイルス蔓延の中、皆様のご支援を受けて、無事に開催することができました。十年おきに行ってきた個展の一環で、『日比谷公園百花選漢詩集』発刊記念」と題して、「百花」の自詠の漢詩を全て揮毫するという「自詠自書」の展覧会です。篆・隸・楷・行・草・かなの六書体、「百花」の組文字、12か月をテーマとした作品、額・軸・パネル、詩箋・全懷紙・半切・三六版など、あらゆる工夫を凝らしました。私も楽しみましたが、皆様にも楽しんでいただけた展覧会になったかなと思っています。

第60回同巧会書展

●会期 2月16日(火)~21日(日)

●会場 銀座かねまつホール

青陽如雲

同巧会を創設されたのは藤本竹香先生です。その跡を縁あって私が会長をつとめました。書の指導者は書技がうまいだけではいけません。学識が必要です。楷書を教えるにしても、唐の四大書家のみでは不足です。北魏の楷書が教えられない人は教える資格がありません。それも鄭道昭を無視した書論などナンセンスの極みです。

私はバランスの取れた知識を基本とすべし、ということを心掛けています。その上での書技の鍛錬です。日頃の練習では臨書が中心で、創作の練習はあまりしません。弟子達にもそれを根気よく伝えています、あまり効き目がありません。

今回の60回展も、細かい指導はしませんでした。けれども各作品とも、それなりのおさまりを見せていると思います。日頃の臨書練習の賜物と思っています。



第5回栗栖芳樹書作展～出版記念～

栗栖芳樹

●会期 4月2日(金)～4日(日) ●会場 ギャラリー第二ステージ(兵庫県猪名川町)

今回の書作展は、現代書作品24点と第5回書作展を記念して出版した「心の軸～書で綴る人生模様～」を展示。表具も自ら手掛けたオリジナル表装で、各作品にとっても調和していると好評でした。また、「新聞の記事を見て」と遠くから来観された方もあり、感謝の念をより深くしました。



「國井誠海一門創立七十五周年記念—誠心社現代書展」

渡邊麗

●会期 4月10日(土)~16日(金) ●会場 東京都美術館2階第3展示室

初日から150名の来館者で盛況。現代の心を謳った詩文書、仮名混じり書、一字書、少字数書、役員臨書、全121点展示。國井誠海作2点、賛助出品3名、会長・渡邊麗は180x180cm詩文大作、理事長・渡邊麻衣子は少字数大作、誠海賞は副理事長・後藤教子、米国の生田博子社中と仏、英、韓、米、インドネシアからの出品があり国際的な展覧会となった。



コロナに負けず展覧会を開催！

- 心芸墨美作家協会(岩浅写心)が「心芸墨美作家協会2020選抜展」を12月8日から13日まで、セントラルミュージアム銀座で開催。
- 日本書蒼院(谷蒼涯)が「第16回日本藝術文化環境書道展」と「第11回ボールペン字大賞」を12月25日から27日まで、さわやかちば県民プラザで開催、子供の作品がずらり。
- 高木撫松副理事長、青木錦舟常務理事、本橋春景専管理事らが所属する埼玉県中央書道人連盟が「第39回埼玉県中央書道展」を1月22日から27日まで、上尾市民ギャラリーで開催。
- 龍峽書道会(林龍成)が「第84回龍峽書道展」を2月5日から11日まで、東京都美術館で開催。
- 煌心書道会(松崎龍翠)が「第39回全国公募・学生部併催煌心展」を2月13日から19日まで、東京都美術館で開催。
- 書成会(建部恭子)が「第32回書成会書展」を2月18日から21日まで、セントラルミュージアム銀座で開催。
- 景雲社(勝田晃拓)が「第36回景雲社「絆」書道展」2月23日から28日まで、クリエート浜松ギャラリーで開催。
- 墨林書道院(遠藤乾翠)が「第50回安らぎと触れあいの書展」と「第37回書のコアメンートルぼくりん」を3月9日から14日まで、銀座鳩居堂画廊3階で開催。
- 照葉会(竹澤玉鈴)が「第16回照葉会書展」を3月17日から21日まで、川越市立美術館市民ギャラリーで開催。
- 八戸臨泉会の五戸光岳評議員を中心に「第49回八戸臨泉会書展」と「第72回八戸臨泉会学生書道展」が3月26日から27日、八戸ポータルミュージアムはっちで開催。
- 菽水書人社(今田篤洞)が「2021菽水書人社展」を4月2日から5日まで、銀座かねまつホールで開催。
- 柏葉書道会(高頭子翠)が「第29回柏葉書展」を4月9日から12日まで、柏市民ギャラリーで開催。
- 高知県書芸院(岡林御舟)が「令和3年高知県書芸院展」を4月9日から14日まで、高新画廊(高知市)で開催。
- 齋藤香坡最高顧問や山下海堂名誉顧問が参加した「第6回ゼロ書展」が5月2日から8日まで、東京交通会館B1Fゴールドサロンで開催。
- 國藝書道院(齋藤香坡)が「第45回記念公募國藝書道院展」を5月7日から11日まで、鎌倉芸術館ギャラリーで開催。

昨年12月から今年の5月までの半年間で14の書道展、記念展や個展も含めれば19の展覧会が開催されました。残念ながら紙上展に変更になったり、中止になった展覧会もありましたが少しずつ日常を取り戻しつつあります。これからも明るく前向きに参りましょう。

アラカルト

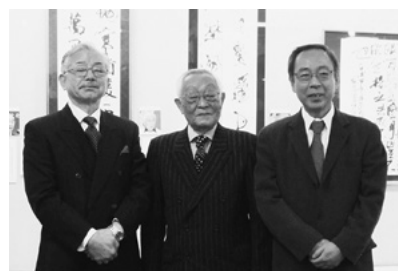
各地で起こる地震に備え、被災地の復興を願って

正川子葉副理事長は、平成19年4月に「野島断層保存・北淡路震災記念公園」に「阪神・淡路大地震の犠牲者慰霊碑」を建立。以降全国から送られてくる慰霊の紙札を毎年4月1日に奉納する運動を続けています。この模様は3月30日に【誰何TV SUIKATV】で取り上げられました。二次元バーコードからご覧いただけます。(事務局)



森井翠鳳先生を偲んで

本展の審査が池袋のサンシャインで行われていた頃、休憩時間に丁度同時期に別フロアで或る老舗社中の展覧会が開かれていて、今年もとジックリ拝見していると、矢張り熱心に見ておられる見知りの審査員先生がいて、何となく話すうち各方面にえらく詳しいのに驚き、同じような好事家(?)がいるものよと大いに意気投合、以来上京の折、地方展などの時、書に勝るか程アルコール嗜好の有志メンバー何人かと共に、飲むほどに書への熱き思いを話し合っ^てて倦むこと知らず。何しろ下世話禁止、「書の話がしたいから」というのが森井翠鳳先生と過ごさせて頂いた貴重なひと時の大概であった。



三人展“夫々の時”会場にて
(左から今口鷺外常任顧問、森井翠鳳顧問、風岡五城理事長)

漢字は井上桂園、仮名は桑田笹舟、篆刻は梅舒適に師事された先生、数々の受賞や多くの業績はとてもここでは語り切れぬ乍らも、強いて一例を挙げてみれば、先生は「安芸門徒です」と仰る通り熱心な浄土真宗の信徒で、その辺りから材をとった作品も多い。よって宗教的示唆に富んだものであり、縁りの竹原市の長善寺には見渡す限り堂々の襖書が回らされている由。

杯を重ねての盛り上がり話から、平成20年より我が“あしで會展”に於いて、同じテーマで臨書競作しようと相成り、最初の“蘭亭叙”にはじまり、コロナ前の令和元年の“書譜”まで12回続けられて、その間メンバー夫々の意気を評価されたか、メディアの方でも頗る好評であったのは正に同慶であった。平成26年には、遂に三人展“夫々の時”と称して風岡五城理事長共々、文字通り夫々が渾身の作品を並べての公開は実に思い出深い催しとなった。就中、森井先生の美麗尽くした料紙になされた何点かの精緻な仮名臨書は、そのエネルギーといい、先生特有の滋味深いものであり誠に印象の強い力作であった。

ちょっとばかりお目にかかれぬまま、敬虔なる信徒たる森井先生のこと、それこそ阿弥陀仏の早来迎來りて、二菩薩の懇ろなあしらいによって蓮の台に移され疾く天に還えられたものと思しく、天寿88歳まさに大往生と申し上げる外はない。

お彼岸過ぎの夕陽が西方の輝きを示しつつの入日時、今日も美しかった夕映えを思い出しながらの述懐である。

合 掌

常任顧問 今口鷺外

各会書展お知らせ(産経新聞社後援)〈令和3年6月～11月〉

展覧会名	会期	会場	社中名	代表
第13回京都佳趣会書展	6月18日(金)～6月20日(日)	京都文化博物館	京都佳趣会	長尾佳風
一日本文化交流ー扇翠アート学院展	6月21日(月)～6月24日(木)	東京中国文化センター	扇翠アート学院	及川扇翠
2021臨泉会選抜小品展	6月22日(火)～6月27日(日)	銀座鳩居堂画廊4階	臨泉会	原田圭泉
第56回書峰展	6月26日(土)～6月27日(日)	秩父じばさんセンター	書峰書道会	田島青谷
group F 2021展 vol. 5 ～新たな可能性を求めて～	7月2日(金)～7月4日(日)	京都万華鏡ミュージアムギャラリー	group F	井上空咲
喜寿記念 玲月書作展	9月3日(金)～9月8日(水)	有楽町朝日ギャラリー	臨泉会	原田圭泉
第7回方琥書院書画展	10月28日(木)～11月2日(火)	茨木市立ギャラリー	日本書道学士院	久田方琥
第53回一煌会書展	10月29日(金)～10月31日(日)	銀座洋協ホール	一煌会	石川天瓦

追 悼

次の先生が黄泉につかれました。

本会での活躍とご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。(敬称略)

顧 問	森井 翠鳳(令和3年2月)	会 友	佐藤とも子(令和元年)
無 鑑 査	檀原 雅山(令和3年1月)	会 友	鈴木 龍星(令和3年2月)
無 鑑 査	邊見 鳳水(令和3年1月)	会 友	高橋 志承(令和2年12月)

編 集 後 記

新緑の美しい季節を迎え、一年で最も活力がみなぎる好機なのに、コロナ禍の収束がままならず、その上、変異種というコロナが蔓延しそうなこの頃です。

書会も今までにない変化が見られ、各社中展は中止、延期という事態になりました。総括会議等も遠隔地の先生とはリモート会議になりました。

ワクチン接種もはじまりましたが、私たちはコロナ収束が出来たらという事ではなく、この時期にどうしたらコロナを押さえながら、共存してゆくことが出来るかという一面も見えてきます。

第38回本展の準備もはじまっていると思いますが、ご自身、並びに周りの方々の健康に細心の注意を払いながら展覧会開催が出来ますように英知を結集しながら共に頑張って参りたいと思います。

(高頭子翠)

(会報編集委員／高頭子翠、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、渡邊麻衣子)

編集・発行 令和3年5月号

〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2

産経新聞社事業本部内

産経国際書会事務局

TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974

email : shokai@sankei.co.jp

<http://sankei-shokai.jp/>

<https://www.facebook.com/sankeishokai>

お願い

会員の皆様に住所・電話番号等の変更があった場合には事務局までご連絡くださいますよう、また、各会書展のお知らせは早めにお願ひ致します。